

New studies clarify breast cancer gene links

概要

乳がんの家族歴のない女性にとって、どのような遺伝性の突然変異が乳がんのリスクを高めるのか、また、そういった傾向のある遺伝子が一般の人々にどの程度存在するのかについて、2つの大規模な研究がおこなわれた。

1つ目の研究では、6万4,000人以上の女性を対象に、乳がんに関連するとされていた12の遺伝子に変異がないかどうかを調べた。その結果、乳がん患者の約5%、比較対照群の1.63%に、問題となる変異が見つかった。これで、米国で歩き回っている女性のうち、2%がこれらの遺伝子に変異を持っている可能性があることがわかった。

2つ目の研究では、イギリス、ヨーロッパ、オーストラリア、アジアの女性のうち、乳がん患者約6万人、乳がんではない患者約5万3千人の34の遺伝子を調べた。

この2つの研究からは、特定の遺伝子によるリスクの高まりや、一般における有病率といった、似たような結果が伺える。

こうした発見からすべての女性が、がんと診断される前に、これらの遺伝子に変異があるかどうかを知る機会が与えられれば、多くの女性の命が救われるだろう。

語彙リスト

herited: 継承された

mutation: 突然変異

flawed: 欠陥のある

conferred: 授与された

predisposition gene: 素因となる遺伝子

pathologist: 病理医

tumors: 腫瘍

ovaries: 卵巣

prevalence: 有病率

その他

遺伝子診断の倫理的問題点

予防や治療が可能な疾患についての出生前診断や発症前診断は意味があるが、治療法のない重篤な疾患の遺伝子診断は大きな倫理的問題を抱えている。出生前診断の結果によっては両親に極めて難しい決断をせまることになってしまう。また、発症前診断により将来重篤な疾患になることを知っていた方がよいかどうかの判断は簡単ではない。「知る権利」とともに「知りたくない権利」も尊重されなければならない。

参考文献

遺伝子医療の倫理的課題/島田隆/2001/

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jnms/68/5/68_5_430/_pdf

最終閲覧日 2021/6/20